

アメリカ、カナダ、インドの各国招待馬7頭に、日本の代表馬8頭を加え15頭で争われた第1回ジャパンカップは、C・アスムッセン騎乗のアメリカのメアジードーツが2分25秒3のレコードタイムで快勝した。迫力ある、みごとなレースだった。



第1回

ジャパンカップ

11月22日 東京 2,400m 晴 良 15頭
メアジードーツ(Mairzy Doates) 2分25秒3

見た、聞いた、 世界の脚だ、 メアジードーツ

▲ザベリワン⑪は三着、日本馬ではゴールドスペンサー⑨が五着に入った

▶二着にはカナダ代表馬フロストキング





▲日本馬も健闘した ゴールドスペンサー、モンテプリンス、ホウヨウボーイも脚を伸ばす



▲スタートしてすぐにサクラシンゲキ⑧が果敢に先頭に立つ



▲勝馬はメアジードーツ、アスムッセン騎乗の牝6歳



▲向正面。各馬が一団となって、あと6ハロン



▲スタンドからは遠来の勝馬を称えて温い拍手が沸き上がった



▲4コーナー、サクラシンゲキがまだ先頭、フロストキング①が迫る

▲ゴールまで200m、フロストキングが抜け出し、外からメアジードーツ、ザベリワン、ベティテイトもやってくる

▶ジャパンカップの残してくれたものは大きかった。来年もすばらしいレースを期待したい



▲場内にはアメリカ国歌が流れていた

▶第1回のジャパンカップは馬主のA.D.シェフラー氏の手に入った



▲フルトン調教師夫人の祝福を受けるアスムッセン騎手

THE JAPAN CUP